

# 小堀セイジってどんな人？

冷戦終結、世紀末を迎える頃に、多感な時期を過ごし、高校2年生の時、約10週間、オーストラリアに短期語学留学をする機会を得て、世界平和に貢献したいとの志を抱き、オーストラリアの大学に進学し、国際政治を専攻しました。在学中、自ら生まれた「北東アジア」では朝鮮半島や台湾海峡などに大きな激震が走り、故郷「北東アジア」に強い関心を抱き、奨学奨励金を受け、中華民国建国の父、孫文の母校である香港大学に留学しました。

大学卒業後、社会人として働く傍ら、国際ボランティアの活動などに携わる中、イラク戦争や有事法制の制定など、21世紀は私が期待していたほど、平和で自由な社会ではないことを痛感しました。2003年、25歳で堺市議会議員選挙に立候補してみないかとの声かけを頂き、徒手空拳で挑戦するもあと一歩が届かず、大きな挫折を味わいました。

それから4年、朝は駅頭に立ち、夕方から夜中、そして翌日までホテルマンとして働き、そのまま寝ずに、大阪府議会の議員控室で府議会議員の事務補助職員として働きました。今思えば、若さゆえにできた事でした。2007年の春、政令指定都市移行後の最初の選挙で初当選を果たし、以来16年目を迎えています。この間、結婚し、父となり、3期目の時には大阪市立大学大学院に進学し、健康寿命の延伸をまちづくりから考える研究に着手し、それが私の政策の柱「健康長寿のまちづくり」の基礎となっています。堺市監査委員に就任した昨春から、大阪公立大学博士後期課程に進学し、「地域づくり×地域福祉」をテーマに研究に着手し、また大阪公立大学都市経営研究科附属都市経営研究センター研究員の委嘱を受けました。世界規模では、気候変動や北東アジアの安定に心を寄せつつ、「人口減少・超少子高齢社会」を迎えた堺市から「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、足元から行動せよ)」を実践していきます。

堺市議会議員 **小堀セイジ**

編集発行 **小堀セイジ事務所**  
〒590-0117 堺市南区高倉台2丁19-17  
TEL 072-292-8619  
FAX 072-292-8679  
mail koboriseijioffice@gmail.com  
https://kobori.cdp-osaka.jp/  
Twitter @seijikobori

公式 HP



Twitter



「聞く・伝える」は議員の基本です。  
ぜひ、みなさまのお声をおきかせください。



# SEIJI REVIEW Vol.83

堺市議会議員

## 小堀セイジ

こぼり

大阪公立大学 都市経営研究科附属都市経営研究センター 研究員



## 市民に寄り添うまっとうな市政へ

～プロフィール～  
■堺市立高倉台小 ■堺市立三原台中 ■大阪市立扇町高校 ■オーストラリア国立ディーキン大学  
■大阪市立大学大学院 (修士) ■大阪公立大学 (博士後期課程在学中)

### ● ストップ！カジノ依存の政治

「IR・カジノ誘致の是非を問う条例」の制定を求める住民投票では、先頭に立ちカジノ誘致反対の声を上げ、住民のみなさんと一緒に署名集めの活動を行いました。引き続き、政府に対し、大阪IR・カジノ計画の不認定を強く求めていきます。

### ● 市長公約違反にNO！ おでかけ応援制度の改悪を阻止

先の市長選挙では、おでかけ応援制度の拡充を掲げながら、2度に渡り市議会に改悪案を永藤市長は提案してきました。住民のみなさんと一緒に声を上げ、2度に渡り市議会で改悪案を否決し続けてきました。馴れ合いの市議会ではなく、緊張感ある市議会であるが故に否決できた事です。引き続き、緊張感ある市議会の若手論客の一人として声を上げていきます。

### ● 永藤堺市長「財政危機宣言」を解除 ～選挙目当てのパフォーマンスであったことが明らかに～



2021年2月8日、永藤市長は突如、議会に諮ることなく「財政危機宣言」を出し、初当選以来、私が議論を尽くし、制度化させた「泉北高速鉄道等通学費補助制度」を財政危機を理由に打ち切りました。2023年1月末、財政状況は何も変わっていないにも関わらず、選挙を目前にし、またもや議会に諮らず「財政危機の解除」を表明しました。いみじくも、堺市は財政危機ではないとの私の主張を、裏付ける結果となりました。

### ● 小堀セイジ市政報告会「市民に寄り添うまっとうな市政へ」



日時：3月19日 (日曜日) 午後1時30分から 入場無料  
場所：堺市立梅文化会館大研修室 (3階)  
ゲスト：菅 直人 衆議院議員 第94代内閣総理大臣 (予定)  
小堀セイジの堺市政改革の決意をお話します。  
ぜひ、おいでください！



## 議会質問回数 南区ナンバー1



### ●安全で安心の中学校給食の開始に向けて

2025年の中学校給食開始を見据え、0-157の教訓を忘れることなく、安全で安心の中学校給食が提供できるよう、1日あたり最大で15,000食の提供が可能な川崎市南部学校給食センターを視察し、栄養教諭の全校配置、食物アレルギーへの対応、配送方法の厳格化、教室内の物置棚の設置などを求めてきました。引き続き、安全で安心の給食提供をめざして力を入れていきます。



### ●ロシアのウクライナ侵攻から早1年を超えました

私は堺市原爆被害者の会顧問として「被爆者2世健康管理表」を交付させるなど、自治体レベルで取り組める内なる国際化や平和活動に取り組んできました。2019年度には、「世界遺産と魅力的なまちづくり調査特別委員会」の委員長として、世界遺産「原爆ドーム」を視察先に選定し、「百舌鳥古墳群の発信はもちろんの事、自治体としての平和構築のための取り組みを学び、市政に活かしています。



### ●「育ちと学び応援施策調査特別委員会」の委員長として

コロナ禍の中、子どもの支援に尽力してくださる子ども食堂運営団体の各区ご代表者様に市議会へお出で頂き、私が委員長を務めた委員会で意見交換を行い、これが契機となり、「子ども食堂の活動支援に向けたクラウドファンディング」に繋がりました。また、市内子ども園の、各区のご代表園長先生にも市議会へお出で頂き、コロナ禍における子ども園の現状などをお聞かせいただきました。これが契機となり、保育士(等)への2万円の堺市独自の慰労金の支給が決まりました。引き続き、先頭に立ち、子どもの育ちと学びをしっかりと応援していきます！

# 政令指定都市さかいを飲み込もうとする大阪都構想に反対

大阪市を廃止分割し、堺市も、堺市議会の同意があれば「特別区」に格下げできることになる「大阪都構想」に反対の立場を鮮明にし、大正区を中心に、論陣を張り続けました。結果は否決。諦めることなく、訴え続ける重要性を学びました。



### ●ワクチン接種予約で大混乱を招いた堺市

私は日頃より、堺市政は市民に寄り添う姿勢が欠如していると指摘し続けてきました。コロナワクチンの予約受付の際に、それが如実に明らかになりました。「繋がらない電話、高齢者にネット予約を求める」などに対し、メディアにも出演し、私は手厳しく批判しました。アルバイト先を失った大学生などを雇用し、自治会館などで、高齢者のネット予約をサポートさせる等いくらでも市民に寄り添う事は可能でした。



### ●歴史文化を尊ぶ、オンリーワンのまちづくり



2008年6月に橋下大阪府知事(当時)は、『大阪維新プログラム』を公表し、「大阪府立泉北考古資料館」は廃止と公表しました。この公表を受け、私は1期目の議員でしたが、日本の焼き物の源流である須恵器の里「泉北」の地から、同施設をなくしてはならないと、木原堺市長(当時)に直談判しました。その結果、大阪府から堺市が引き継ぐ事になり、2010年4月に堺市立泉北すえむら資料館が開館しました。経年による老朽化のため、重要文化財の保管には課題があることから、同資料館は2016年9月末に閉館しました。

当初、堺市は閉館に伴い、施設の除却を計画していましたが、同施設は、高名な建築家である榎文彦氏の作品であることから、私は保存活用する道を模索すべきと再三に渡り議会で求めてきました。

その結果、2020年8月に同施設はカフェなどとしてリニューアルオープンし、泉北の新たな憩いの場として生まれ変わりました。

私は、オンリーワンの地域資源(須恵器やだんじりなど)を活かしたまちづくりを進めていくことで、更なる南区の魅力向上をみなさんと一緒に進めて参ります。

左記のコメントが、保存決定当時の泉北コミュニティ「記者のつぶやき」に掲載されました。

山本裕 ▼大連公園の中にある旧泉北すえむら資料館の建物が商業施設として転用されることになった。日本を代表する建築家、榎文彦氏の作品だっただけに、堺市が撤去の方針を転換したことは喜ばしい。今後は横氏が手掛けた建築の一つであることも大いにPRしていくべきだ。そして、市議会で建物の保存を熱心に訴えていたのが小堀清次議員だった。これも長く記憶されるべきことだと思う。

### ●障がいがあってもその人らしく暮らせるまちへ

支援教育については、過密化する上神谷、過密老朽化する百舌鳥、両支援学校への抜本的な対応(即ち3校目の支援学校の整備)、通学バスの増車、支援学級での教員スキルのアップを求めています。また、老障介護も大きな問題です。高齢者も障がい者も、安心して地域で生活できる場の整備を引き続き求めていきます。



写真右:支援学校の通学バスに乗り込み、拘束帯を体験